

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「男の浪漫vs女のロマンス!」

テーマ:「見た目も頭もいいのに、現実に飽き飽きな美少女」

キャラクター

60

ストーリー

55

テーマ(設定)

60

文章力

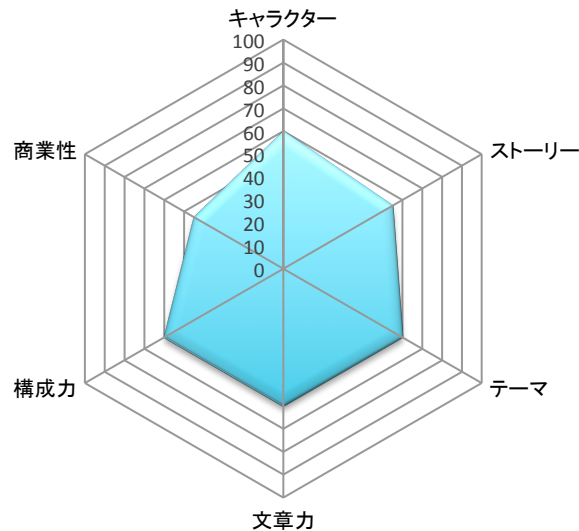
60

構成力

60

商業性

45



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・基本的な構成力、文章力には一切問題が無いと感じる。ただ強いて言うならば少し問題点があったくらいの方が面白くなったのではないかと。何もかもが普通過ぎて、あと一つこの作品ならではの強烈性が欲しかった。例えば、最期に惜と運がくっつくというオチというよりただの成り行きの結果としても見れるため、いっそ最期くっつかないでどうか。(これが効果的に働くかはさておき……)これくらいインパクトのある裏切り要素があっても良かった気がする。

・全日本野鳥の会で何故か笑ってしまった。かつての紅白歌合戦を思い出す。

・今回恐らく一番面白かったのは委員長。チャリンコダッシュというインパクトある登場からのテンションの高さは強烈に印象に残った。下手したら運とのやりとりよりも委員長とのやり取りの方が潜在的面白さを含んでいる可能性があるのでは、何か運にもこのような「頭のおかしさ」があれば良かったと感じる。

・ヒロイン男装、主人公女装という設定は非常に面白かった。この設定は、例えば「ヒロインが男役を頑張るがどうしても可愛い女の子的な側面が出てしまう」「主人公が男らしくガチで女形を学ぶ」といったそこそこいたるまでの過程の方がその設定の劇そのものより面白くなる可能性があったため、ギャルゲーで学んだ、的な一言に終わってしまったのはもったいないと感じる。

合計加点ポイント 0

総得点: 340 / 600

B方式総合得点: 19267 点